

きらめき NEWS

VOL. 16 (2026. 6)

○取り組み始めたきつかけ
私がダイバーシティに取り組みよう
になったのは、本学に「女性活躍推進委



堤 千佳子さん

当財団が取り組む男女共同参画社会の形成を考える上で、「ダイバーシティ推進」は重要なキーワードであり、今年度から学校等での講座のテーマに取り上げています。
そこで、本講座の講師であり、山口東京理科大学でダイバーシティ推進室長を務める堤千佳子先生に、ダイバーシティとは何か、山口県の現状、今後の取組などについてお話を伺いました。
誰もが自分らしく生きやすい社会をつくるために、一人ひとりの「意識改革」のヒントに迫ります。

ダイバーシティ推進の鍵は、一人ひとりの意識改革

「意識改革」こそが最も重要であり、同時に最も難しい点です。無意識の思い込みや、長年の慣習に基づく価値観は、誰でも簡単には変えられません。しかし、そこに向き合わなければ、真のダイバーシティは実現しないと感じています。

実際に取り組んで痛感したのは、制度や仕組みを整えるだけでは十分ではなく、「意識改革」こそが最も重要であり、同時に最も難しい点です。無意識の思い込みや、長年の慣習に基づく価値観は、誰でも簡単には変えられません。しかし、そこに向き合わなければ、真のダイバーシティは実現しないと感じています。

○ダイバーシティとは

ダイバーシティとは、一言で言えば「多様性」です。性別や年齢、障害の有無、国籍などの違いに関わらず、一人ひとりを尊重し、多様性を認め合う社会や組織をつくらうという考えです。

私が考えるダイバーシティは、次の3つが揃って初めて機能します。

一つ目は「多様性 (Diversity)」です。人は、それぞれ異なる背景や価値

観、特性を持っているという事実を認めることが大切です。
二つ目は「公平性 (Equity)」です。単なる平等ではなく、立場や違いに応じて必要な支援や配慮を行い、スタートラインの不均衡を是正することで、最近はこの考え方が重要視されています。
三つ目は「包摂性 (Inclusion)」です。これは、多様な人が安心して参加し、意見を述べて力を発揮できる環境をつくることです。

○山口県内の現状

山口県は、全国的にみても少子高齢化が進んでおり、地域の活力を維持するためには、ダイバーシティ推進が喫緊の課題です。県として、知事を中心とした女性活躍応援団のシンポジウムを行うなどダイバーシティ推進の取組は始まっていますが、固定的な性別役割意識など、長年の文化的背景が影響しているため変化には時間がかかります。

本県は、女子の大学進学率が全国と比べると低く、保守的な傾向も残っています。また、意思決定の場に女性が少ない

県民活動推進委員リレーコラム Vol.13

藤原 昌隆さん
((一社)絆スポーツクラブ萩：萩市)

「地域全体で、子どもたちを育てるまちへ」



萩市では、少子化や教員不足などを背景に、学校部活動を地域へ移行する取組が進められています。

私は、学校教育と地域クラブの両方に関わる立場から、「地域みんなで子どもたちを支える環境づくり」に取り組んでいます。

これまでの学校部活動は、学校単位で活動することが当たり前でしたが、子どもの減少により活動の継続が難しくなっています。

そこで、一般社団法人「絆スポーツクラブ萩」を設立し、陸上競技・軟式野球・ソフトテニス・吹奏楽などの地域クラブ活動に加え、地域の方々と連携した体験活動や交流活動も行っています。

活動の中で大切にしているのは、競技力向上だけでなく、子どもたちが地域とつながり、「ここに居場所がある」「挑戦してみたい」と感じられる環境づくりです。

また、こうした活動は、子どもだけでなく、大人同士のつながりや地域コミュニティの活性化にもつながり始めています。陸上競技の指導を通して、子どもたちの成長や、地域の方々が支え合う姿を見るたびに、大きなやりがいを感じています。

少子高齢化が進む時代だからこそ、スポーツ文化活動を通じて、人と人がつながる「萩のまちづくり」に、これからも取り組んでいきたいと思っています。



財団イベントスケジュール

開催日	イベント名	主催者	会場
7/18⊕	若者チャレンジ応援事業助成金交付式&団体交流会	財団	KDDI 維新ホール
8/ 1⊕、8⊕ 22⊕、29⊕	きらめき活動助成事業中間報告会	財団	岩国市内、下関市内 ZOOM、防府市内
8/19⊕、9/16⊕ 10/21⊕、11/25⊕	女性リーダー養成セミナー①～④	山口県経営者協会・財団	山口市内
10/12⊕・Ⓟ	県民活動フェスタ	やまぐち県民活動促進実行委員会	ルルス防府
10/20⊕、11/25⊕	男性管理職セミナー①、②	山口県経営者協会・財団	山口市内
10/24⊕～25⊕	きららでキラリ！県民つながるフェスタ	やまぐち県民活動促進実行委員会	山口きらら博記念公園
11/ 4⊕、18⊕	きらめきスキルアップセミナー	NPO 法人あっと・財団	山口市内
11/29⊕	男女共同参画推進イベント	実行委員会・下関市・財団	下関市内

(秋吉台国際芸術村)

開催日	イベント名	料金	時間
6/14⊕	秋吉台映画村 Vol. 18 「白鍵と黒鍵の間に」	一般800円、高校生以下300円	13:40～
6/27⊕	アーティスト・イン・レジデンス交流プログラム「How to Burn 制作中！」	無料 (先着 20名)	14:00～15:30
7/18⊕	山口県知事賞受賞記念コンサート Vol. 5 (会場：クリエイティブ・スペース赤れんが)	一般1,000円、学生500円	13:40～
7/25⊕、26⊕	アーティスト・イン・レジデンス交流プログラム「The Prayer」	無料	10:00～17:00
8/11⊕・Ⓟ 16⊕	秋吉台ミュージック・アカデミー 2days ガラ・コンサート	1回券：一般3,500円、学生2,500円 2回券：一般5,000円、学生4,000円	14:00～
9/ 6⊕～8⊕	第15回秋吉台音楽コンクール テューバ部門	無料	10:00～ (予定)

発行

“男女が共同して参画し、文化が薫り、県民活動が広がる”
公益財団法人 **山口きらめき財団**

〒753-0021
山口市桜島三丁目2-1 山口県宮野庁舎2階
TEL 083-929-3600 FAX 083-924-9096
✉ info@y-kirameki.or.jp



令和8年度きらめき活動助成金交付式

当財団では、本県の県民活動を支援するため、団体の立ち上げ・自立を支援する「ゆめプログラム」、地域における社会的課題の解決を支援する「はなプログラム」により、県民活動団体にきらめき活動助成金を交付しています。

令和8年度は32団体の助成を決定し、5月15日



に助成金交付式を防長苑（山口市）で開催しました。

当日は、御出席いただいた29団体の代表の方に村岡理事長から交付決定書が手交され、「新たに県民活動に取り組む団体や、一層の飛躍を目指す団体のモデルとなるよう活躍を期待しています」とエールが送られました。

また、交付団体を代表して、難病サポート familia やまぐち（山陽小野田市）の代表 岩屋紀子さん（右写真）が、「地域の課題を自分ごととしてとらえ、楽しみながら活動を行っていきます」と決意表明をされました。



交付団体一覧

○自立支援「ゆめ」プログラム

団体名（代表者名）	所在地
THINK PINK SHIMONOSEKI (小川 優子)	下関市
Team ファルージャパン (木村 美枝子)	宇部市
Re:Born Japan (西口 恵利子)	宇部市
クリエイターズネット山口 (石光 真由美)	山口市
ながとオーガニックマルシェ実行委員会 (石田 香織)	長門市
いきいきじかんチェアー (吉川 美奈)	周南市
スマイルプランミュージック (寄本 和美)	山陽小野田市
ブラジル文化交流会 (熊谷 たえこ)	山陽小野田市

○課題解決支援「はな」プログラム

団体名（代表者名）	所在地
しものせき ここはぐ (是澤 アイ)	下関市
下関空襲・終戦展実行委員会 (瀬谷 由美子)	下関市
田中絹代メモリアル協会 (酒本 哲也)	下関市
角島灯台会 (藤岡 達雄)	下関市
(一社) 彦島ぼれぼれ (緒方 幸子)	下関市
豊北町自然観察指導員会 (広瀬 徹)	下関市
NPO 法人 IRIS (濱田 剛士)	宇部市
子育て応援室スマイル (松岡 幸子)	宇部市
NPO 法人ワン・フォー・オール (河野 邦彦)	宇部市
こどもと本ジョイントネット21・山口 (山口 智子)	山口市
NPO 法人山口せわやきネットワーク (児玉 頼幸)	山口市
(一社) 絆スポーツクラブ萩 (大田 忠男)	萩市

団体名（代表者名）	所在地
STAND Still 山口	防府市
NPO 法人ぼうぼうネット (山本 一夫)	防府市
遊びと育ちのインクルーシブ 架け橋会 (橋本 尚理)	岩国市
岩国くらす隊未来係 (原 充世)	岩国市
宇野千代顕彰会 (島津 教恵)	岩国市
子育てサポートにじのわ (小原 夕依)	岩国市
美竹林ボランティア錦川 (植田 敏彦)	岩国市
子どもが安心する居場所づくり ともそい (林 美香)	柳井市
ふるさと維新YYプロジェクト (山本 恭兵)	柳井市
想いを繋ぐブランディング MNY (恵良 賀子)	周南市
山口県空襲展実行委員会 (工藤 洋三)	周南市
難病サポート familia やまぐち (岩屋 紀子)	山陽小野田市



という課題があります。これらを解消していくためには、特定の層だけではなく、女性・高齢者・障がい者・外国人が活躍できる場をつくらなければなりません。そして、一人ひとりの「意識改革」が必要です。

○大学が進めていること

近年、多くの大学で「ダイバーシティ推進室」の設置が進み、独自の取組が広がっています。

本学では、学校推薦型選抜において女子を対象とした「女子枠」を導入しています。これは、多様な視点を理系分野に取り入れ、女性人材の育成を図ることを目的としています。

また、女子学生の在籍が少ない工学部の女子学生を対象に、親睦を深めるとともに、女性教員に気軽に相談できる「女子交流カフェ」の開催を行っています。

この女子交流カフェは、理系分野で活躍を目指す女子学生には貴重な情報共有の場であるため、女子学生から継続してほ



しいと言われている。

さらに、教職員が安心して就業できるように、子育てサポート企業として「くるみん」認定の取得などの環境整備や、教職員の子どもを対象とした「チルドレンデイキャンプ」などの子育て支援を行っています。

大学がダイバーシティを尊重する姿勢を明確に示すことで、学生は安心して色々なことに挑戦でき、教職員も働きやすくなり、大学全体の教育力・研究力の向上につながると考えています。

○無意識のバイアス

「物語のジェンダー観の変化から気づく」

「料理はお母さんが作るもの」「理系は男子の分野」など、私たちは日常の中で無意識の思い込みを持っています。これは、子どもの頃からの家庭環境や、文学・物語の世界から影響を受けていることが多いです。

例えばディズニーでは、シンデレラのように「王子様を待つ受け身のプリンセ



ス」から、アリエルやベル、そして近年ではアナやモアナのように「自ら動く積極的な主人公」へと変化しており、人種的多样性も考慮されるようになっていきます。

また、『赤毛のアン』や『若草物語』は、当時の女性の職業選択や結婚観、差別などの問題が、ダイバーシティの視点で読み取れます。

物語の変化は社会の変化を映し出す鏡であり、私たちの価値観を更新する力を持っています。こうした「物語の読み替え」を通じて、自分の中の無意識の思い込みに気づき、他者理解を深めるきっかけをつくることができると考えています。

○これから力を入れていきたいこと

これから最も力を入れたいことは、未来を担う若い世代へのダイバーシティ推進と「意識改革」です。

特に重要なのが、無意識の思い込みに気づくことです。悪気のない偏見が誰かの選択肢を狭め、傷つけてしまうのを防ぐため、教育の場などで意識づけを行っていききたいです。

一人ひとりの意識が変わり、多様な個性が尊重される山口県を目指して、啓発を続けていきたいと思っています。